

児童発達支援

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あんだんて			
○保護者評価実施期間	2025 年 4 月 10 日 ～ 2025 年 4 月 30 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	(家庭数) 4	(回答者数)	(家庭数) 4
○従業者評価実施期間	2025 年 4 月 1 日 ～ 2025 年 4 月 15 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	2025 年 5 月 7 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々新たなプログラム作りに励み、個々の特性に合わせて、多種多様なプログラムを作成している。	様々な資格やスキルを持った職員が在籍しているため、5領域にバランスよくアプローチでき、利用児の特性に合わせたプログラムを考えている。また、プログラムを通して、利用児の得意（強み）、不得意（弱み）を把握し、個別・集団のプログラムを作成している。	全職員がプログラムの立案を行っているものの、プログラム実施後の振り返りができていないことがあるため、振り返りを行い、ブラッシュアップしたプログラムを提供できるよう、さらに話し合う。
2	事業所の敷地が広く、屋内・屋外問わず、プログラムに応じて使い分けができる。	宿題やおやつ、専門的支援等、活動に応じて気持ち切り替えやすくなるよう、場所を選んでいる。屋外スペースも広いため、運動プログラムでは、内容によって使い分けをしている。	広い分死角も多いため、見えないところでの利用児同士のトラブルや怪我に気を付ける。職員配置を考える。
3	職員間の意思疎通が図りやすく、連携・協力がわかまりなく行える。	月1回は職員全員出勤の日を設け、会議や委員会等での意見交換を積極的に行っている。また、申し送りの記録や議事録があり、出勤していない日の利用児の様子や会議で決定したこと等、誰でも確認できるようにしている。	一日の活動や流れを決める責任者（リーダー）を設けているものの、責任の所在に偏りが見られるため、全職員が状況判断に責任を持ち、情報交換を行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設内の設備や環境に不十分なところがある。	施設の敷地が広い分、設備を充実させるための費用もかかってくるため、現在も環境整備を行っているものの、未完成なところがある。	設備投資することはもちろんのこと、活動時における職員の配置を工夫し、目が届くようにする。また、バリアフリー化に向けて、安全点検の強化を行う。
2	事業所の活動内容の周知が不十分である。	情報発信としてブログを開設しており、ホームページも現在作成中であるものの、そのようなインターネットを活用していることの周知が未だ不十分である。	事業所のチラシを様々な施設に配布する等して、SNSの活用とともに、活動内容を周知していく。
3			